

Block 1-4 期

Tutorial 課題 No. 14

「少ない量で大丈夫？」

(薬物の作用機序と体内動態)

2003

薬理学教室



シート1

夕方から熱を出してしまった女子医大生の良子さんは、戸棚から薬箱を出してきました。普段無口なお父さんは少し心配そうです。

父「良子、薬箱なんか出してきてどうしたんだい？」

良子「うん、少し熱があるからバファリン®を飲もうと思って」

父「ああ、その薬だったらお父さんも飲んでるよ」

良子「え？熱もないのに？」

父「少ない量で血液がサラサラになる薬だって、お医者さんは言っていたけど」

良子「本当に少ない量で大丈夫なの？」

良子さんは、熱が下がったらインターネットで薬について調べてみようと思いました。

【記事の著作権は出典】

【抽出を期待する事項】

アスピリンの作用、作用機序（解熱作用、抗血小板作用）

（発熱の機序）

（血小板凝集による血栓形成機序）

シート2

熱が下がって数日後、薬のことを調べた良子さんは、お医者さんの処方
方は正しいことをお父さんにきちんと話してあげました。
父「なるほど。薬の量を守ることは大切なんだね」
良子「そうよ、量が多くても少なすぎてもだめなのよ」
父「お父さんの薬は、小さいし一日一回飲むだけでいいからその点は楽
だよ」
良子「そうね口から飲める薬は楽でいいわよね」

【抽出を期待する事項】

- 薬の用量と反応の関係
- 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）
- 薬物の投与経路（剤形）
- アスピリンの有害反応

【取巻を待望する事項】

(アスピリンの作用、作用の経路、作用の部位、作用の時間)

(有害反応)

(有害反応の経路、作用の部位、作用の時間)